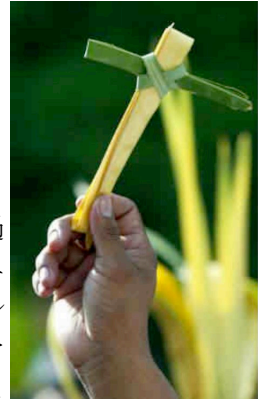




2010年03月28日

## 【棕櫚の主日 PALM SUNDAY】

●今日は棕櫚の主日/Palm Sundayと呼ばれ、主イエスが十字架にかかれる前にエルサレムで過ごした最後の一週間の開始を告げる日です。主イエスは人が乗ったことのない子ロバに乗られ、エルサレムに入城された際、人々はナツメヤシの枝を枝ごと野原から切ってきて道に敷いたことからこの名で呼ばれるようになりました。今日から土曜日までを受難週と呼び、木曜日夜が最後の晩餐が行われた日、金曜日が十字架に架けられた受難日となります。このエルサレム入城は将来、再び主イエスが戻ってこられることの「予表」にもなっていることも覚えましょう。■



### 【先週のメッセージより】ペテロの涙 ルカ22:31~34、39~62

●イエスは神であり、人を真実に愛しておられるので、タイミングを計って、愛をもって人の罪深いありのままの姿を示されます。イエスはあえてすべての弟子たちの前でペテロの三度の否定を予告されました。この世的な基準で言うなら、主はペテロの自尊心を傷つけ、人前で恥をかかせたこととなりますがこれが神の愛なのです。

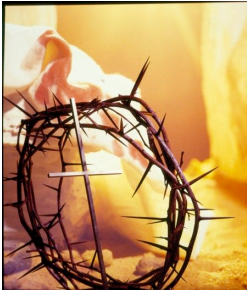
●傷ついたペテロは、イエスに反論し「御一緒に死にます！」と誓い、つい数時間前、洗足を通して謙遜の教えを受けたばかりなのにペテロは他のすべての弟子達が躓いても自分は決して躓かない、と仲間を見下した言い方をして、高慢の地金を現わします。

●数時間後、ペテロは自分の無力と不真実を徹底的に知らされることとなります。彼の涙は愛する主

を裏切った痛み、誓ってまでイエスを知らないと言った自分の弱さと醜さ、「一番弟子」という身勝手な偶像が破壊される痛みとが入り混じったものだったでしょう。

●主の目的は聖書で「肉」と呼ばれている私たちの罪にまみれた汚れた自尊心、愚かなプライドを明るみに出し、その正体を私たちに悟らせることです。さらに、人間的な頑張りでは神に従い通すことができないことを理解させ、私たちがへりくだって主と共に歩む歩みに入るよう導くことなのです。

●そのために時として私たちは、ペテロのように「砕かれる」経験をさせられることがあるのです。日々自分の十字架を負って主イエスについて行くというのは、私たちの罪深い肉の性質を十字架につけ続けることなのです。■



【今週の暗唱聖句】 第一ペテロ 2：24

キリストは自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

● アダムとエバは与えられた自由意志を働かせ、神を愛するを選ぶ代わりに不従順を選び取ったのである。十字架もどこまでも自発的に選択されたものであった。イエスは罪人を愛し、彼らの贖いになるという神の御心に従うことを選ばれたのである。十字架を通して与えられる救いの恵みもまた強制されることはない。私たちが選ぶようにと差し出されている。 ■

【聖霊との歩み（4）まとめ】

私たちが日々、聖霊様に導かれ、聖霊様に満たされて歩んでいくために聖霊様が私たちの人生で何をなさろうとしているのかを視覚的に理解しておくとお助かります。以下の図を是非頭に入れて歩んで下さい。

- 1) ご聖霊はキリストを受け入れた者一人一人をご自分の住まいとされる（内住）。有能な家庭教師のごとく、神のこどもたちと一步一步ともに歩み、神の子供とされている確信を与え、罪に打ち勝つ方法を教え、聖書を教え、真理に導びかれる。その究極の目的は私たちにキリストに似た者にする事である（聖化）。人の成長は他人との関わりを通して実現するが、その場として、神は信者の集まりである教会を備えられた。 2) に続く→

